

アクティブラーナーを育てる3ステップ

全員参加型の授業作り

フリートーク
【対話の瞬発力】

学級作り・自己肯定感を育てる

ホップ

ステップ

ジャンプ

Plan

反応・自己表出を育てる

Do (発問の工夫・立場の明確化)

- ①学級全員が発表する機会を設定する
- ②つぶやきを授業に生かす
- ③「わからない」を言える雰囲気づくりをする

価値付けする児童

- ・反応している子
- ・間違えた子（そのよさ）
- ・「問い」を発する子（創造）

Check → Action

Plan

聞き合う関係を育てる

Do (発問の工夫)

- ①他者共感を高める雰囲気醸成する
- ②友達の考えの良いところを見つける
- ③自分と友達の考えを比べる

価値付けする児童

- ・話し手の気持ちを考える子
- ・「違います」が言える子

Check→Action

Plan

論理的に話し合う力を育てる

Do (意図的に関わらない場面を増やす)

- ①話し手が聞き手の様子（理解度）を見ながら話す

価値付け例

自分の考えを発信している子

Check→Action

Plan①

全員発表

Do①情報提供型

Check→Action



Plan②

温かい雰囲気

Do②お悩み型

Check→Action



Plan③

楽しく話し合う

Do③想像型

Check→Action



Plan④

論理的に

Do④対立型

Check→Action



学習規律と生活規範の徹底
戸二小授業スタイル・戸二っ子スタイル

○ポートフォリオ
【他者と比べるのではなく過去の自分と比べる】

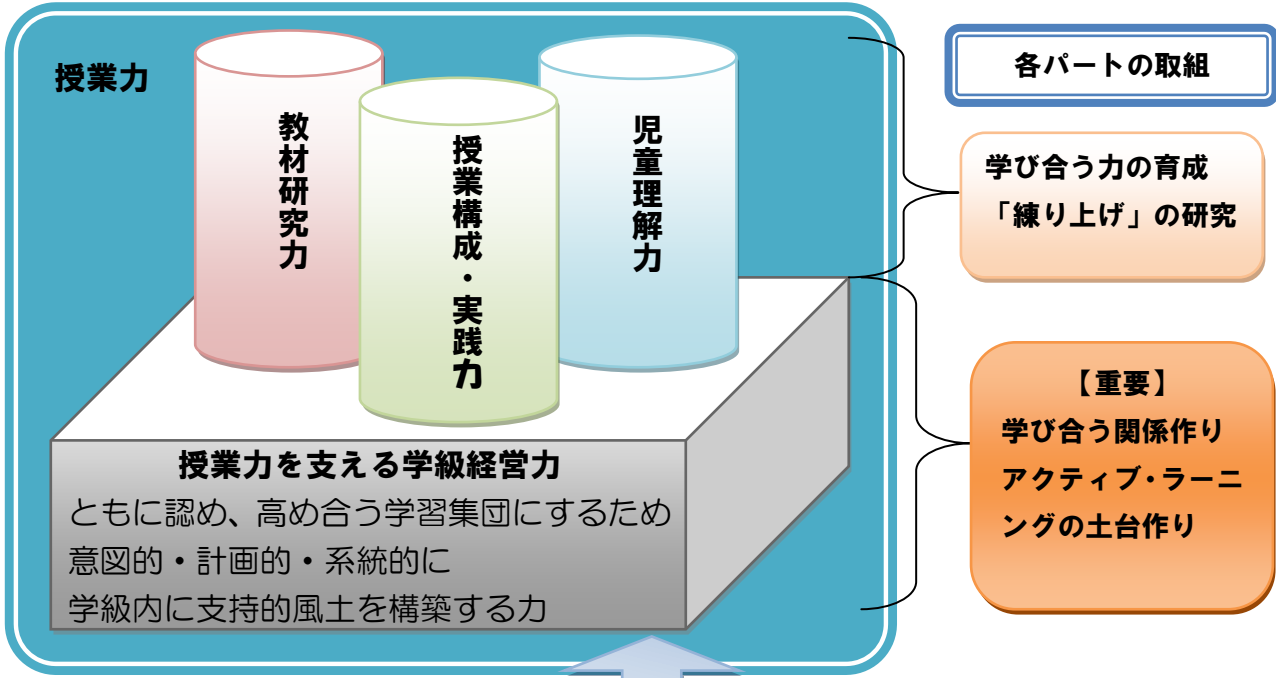
○振り返りの充実

○ふわふわ言葉
クラスの取組

○教師の言葉かけ
・アンテナを高く
・価値付けこそ仕事
・ベテランに学ぶ



授業力向上構想図



算数科で求められる学級の姿

【安心して語り合える学級】【先生や友達の言葉に反応する児童】【他者共感の姿勢】
 「いいですか?」「いいです!」では児童の話し合う力は育たない。
 「答えが出てからが学びの始まり」を子供たちが理解している。
 「授業は正解を出すところではない。様々な考え方を出すところである。」

目指す教師の姿

- ①教師は学級で一番最後に納得する人になる。
 (その学習が苦手な子が何を考えているか意識しながら進めている)
- ②「答えが出てからが学習の始まり」という意識を常にもつ。
- ③ペア・グループ・クラス等、学び合いの目的を明確にして授業を進めている。
- ④期待する学びの態度・表現・対話の姿を即時、価値付けしている。

【高学年の授業例(算数)】

主体性の生まれない発問・指示例

- ・ 児童が解き方を発表
 T「友達の考えを聞きましょう」
 「どの解き方がよいか考えましょう」
 「似ている考えを見つけましょう」
 ▲【この活動に児童の主体性はない】
- ・ 児童が考え方を発表
 教師がうなずきながら発表者を見て
 T「本当だね」「なるほど」
 ▲【教師の言葉で児童の思考は停止】
- ・ 児童が考え方を説明
 教師がフォローするつもりで
 T「〇〇さんはこういうことを、言いたいだね」(結局教師が説明)
 ▲【子供の学び合う力は育たない】

【高学年の授業例】

主体的に学び合う児童を育てる展開例

- ・ 児童が解き方を発表
 C「なるほど」「そうか」「え?」「どういうこと?」
 ◎【児童が自己表出しやすい雰囲気をつくる】
- ・ 児童が考え方を発表
 教師が発表者以外の反応を見ながら
 T「(首をかしげている子に) どうしたの?」
 「(うなずいている子に) どこでわかったの?」
 ◎【教師の言葉で児童相互の考えをつなぐ】
- ・ 児童が考え方を発表
 教師は何が正解かわからないふりをして
 T「〇〇さんが言っていたのはどういうこと?」
 ◎【発表者以外の思考を促す】

育てたい(価値付けたい)算数・数学的態度、思考・表現

価値づけたい算数的な態度

1 進んで課題把握をしようとする

「どうなっていればわかるんだろう」「〇〇はわかるから～」

2 筋道を立てようとする

「これ(既習)を使ってみよう」「これが正しいわけは…」

3 簡潔・明瞭に表現しようとする

「すっきりできないかなあ」「もっと簡単にできないかなあ」

4 よりよいものを求めようとする

「もっといい方法はないかなあ」「別の方法はないかなあ」「もっと簡単に～」

算数・数学的な考え方①(方法に関するもの)

1 帰納的な考え方

「(共通する)きまりがある!」「色々な場合を考えてみれば…」

2 類推的な考え方

「今までと同じようにできないかなあ」「(練り上げで)さっきはこうだったから…」

3 演繹的な考え方

「(既にわかっていることを)もとにして考えると…」

「これが言えるには何が分かっているのか」

「だから～」 「なぜなら」

4 統合的な考え方

「まとめると～」 「似ているところは～」

5 発展的な考え方

「条件を変えてみたら～」 「数を変えてもできるのかなあ」

6 抽象化・具体化の考え方

「例えば～」

7 単純化の考え方

「簡単な数に置き換えればできる」「口をつかって式をつくれれば～」

8 一般化の考え方

「いつでも」

9 数量化・図式化の考え方

「図に表せば～」 「表にするとわかるかも」

10 仮定の考え方

「もし～なら…なる」

答えが出てからが本当の算数の始まり